

土・まち・みどり

通信 第60号

2015. 8. 3

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆5月のつどい ◆フラワーアレンジメント講習会報告 ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて
◆ポタニカルアート (入門編) 講習会報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

5月のつどい 総会・ミニ園遊会報告

シェア奥沢での開催は2回目のため様子も分かり、総会は、日本間を集会用にリフォームされた室内でゆったりと行いました。議題は、例年通りの活動と会計の実績と新年度計画の審議に加え、監事に遠藤肇さんの新任を提案し、全てご承認頂きました。

報告事項として、地域の土とみどりを守って行くための対策を冊子にまとめる計画をお話した所、出席の方々から建設的なご意見を多く頂きました。

また総会后ミニ園遊会は中庭の樹陰で、パラソルの下、お茶とお菓子の交流会、おこわやお菓子の売

店、購入花苗の廉価販売、会員からの持込苗の超廉価販売で、楽しい時を過ごしました。これでようやく「ミニ園遊会」という雰囲気が出てきた感じです。

ただし開催日が、ニュースレターや各種の案内チラシの印刷機を使用できる日が遅くなった等、例年よりも2週間程遅れの5月30日になったために、シェア奥沢の好環境でも、近年の温暖化傾向には勝てず、矢張り暑かったことは否めません。来年は5月連休直後位の時期を検討します。(鈴木)

フラワーアレンジメント講習会報告

(6月20日・奥沢東地区会館、テーマ「手作りエコボックスに寄せ植え風ハーブと果物」)
『子ども達の力を試して』寺澤宏枝さん

梅雨の晴れ間の週末、フラワーアレンジメントの会に参加させていただき、大いにパワー・アップいたしました。

すでに、係の方々の準備もとのい、お馴染みの先生の笑顔に迎えられて、さっそく二つの牛乳パックの鉢に、草花や果物そえて、作品を完成させるものでした。先生の話を伺ううちに、これは後世を担う子供にも大切だと思い、急遽呼びました。小三の優璃が母親と並び、まもなく小六の莉穂を呼び出して参加が実現しました。すぐに周囲の雰囲気にとけこんで、先生のご指導に従い自分なりに工夫をしていた様子。私は、まとめようとするまとまらないので一苦勞。ハーブとフレッシュなオレンジ、レモンの香りが意欲をさそい皆真剣そのものでした。

「今日、どうだった？」二人は口をそろえて、「すごくおもしろかった!」「どこがよかったの」六年の莉穂がすぐに「色々な草花や緑の葉をアレンジして自分ごのみに工夫して個性的な作品ができた」、三年の優莉は「自分の考えで作れたのが嬉しかった」「わからないところやむずかしいところは先生や大

人の人に手伝ってもらえた」「お菓子がかわいらしくておいしかった」。後日、オレンジをひやして食べて暑さを吹きとばした。

ある朝、六時頃だったか、前夜の雨で心配だった花をみていると、通りかかったジョギング中の三十代位のピンクの上着に帽子の素敵な女性が足を止めた。「お花がきれいですね」「ええ、この花が元気なのは、五月に土とみどりのミニ園遊会で沢山買ったのです」「あら、そこはどこですか?私も行ってみたいわ」「ええ、是非来て下さい」「来年を楽しみにしています!」といて神社の方に去っていかれました。

”花には水を 人には愛を

人生にはユーモアを”(源氏鶏太)



おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「奥沢に根を張って」

奥沢1丁目 天野 誠二

私は、現在の場所1丁目22番地(当時は1丁目158番地)で、産声をあげた。昭和15年12月、この年は、紀元2600年の慶祝で、国中が湧き上がっていたようで、我が奥沢も提灯行列と人の波がいつまでも途切れることない賑やかさだったそうです。

以来74年の月日が、ながれたいま、こうして記憶をたどりながらも、こよなく奥沢を、愛した、遠い所の先人たちから、学んだ事を、記すことで、お手伝い出来ればと思っています。

これは、あとにつづくものに、残しておきたいと、古老、先人、から耳にしている私事で恐縮とは思いますが、文面をお借りして、記しておきたい思います。

奥沢史の探求に、生涯をかけて資料を収集された、故人となられました。我が師甲府方鈴夫さんのご指導のお蔭で、この道を歩いてこられたと思います。

郷土史研究家鈴木宗さんによる「奥沢史年表」によれば、1189年、頼朝の家臣の天野茂右衛門が奥州に下ろうとしたその途中、奥沢本村の大音寺付近で持病に苦しみ奥沢の地に留まったというのが奥沢に在住した最初のような。幻のような、話ではあるが、いつまで語り継がれていくだろうか。

江戸時代の奥沢地域は奥沢新田村と奥沢本村に分かれていました。大音寺の位置する奥沢本村はわずか20余軒の農家があるばかりと聞いています。生家はこのうちの一農家であったことが当時の古地図に載っているの分ります。

今でも残る大音寺山門の二本の松は、村の頃から



(大音寺山門の二本松)

奥沢の移りかわりを見守り幸せを、願いながら大地に、根をしっかりと踏まえ行き交う人々を元気づけています。

鷺草の里奥沢に、常盤姫の伝説ようなロマンが生まれれば。こんなことを思いながら。

「奥沢の御用聞き」

奥沢5丁目 小林 弘明

生まれも育ちも奥沢で生粋の奥沢っ子。現在52歳で酒屋を営んでおります。

祖父が山梨から移住し、この土地で酒屋を開業し父が2代目、私で3代目になります。

現在奥澤共栄会に加盟しており、色々な職種の方たちと日々、町の発展について話し合い、活動しております。

しかし、ここ奥沢に至っても地方の商店街と同様シャッター通り商店街の危機感は否めません。

そこで私達『奥澤共栄会』は世田谷区と共同で『活気ある商店街をもう一度』と声をあげ、4年前から試行錯誤を繰り返し、商店街のコンセプトを『奥沢の御用聞き』とし町の人とのふれあい、様々なイベント、町や店の紹介を通して安心、安全なまちづくりを目指しております。

御用聞きといっても、様々な職種の方々がいらっしゃいますしライフスタイルも様々ですので、コミュニケーションの取り方は千差万別です。

私の家では昔は『御用聞き』が中心で、一軒一軒、各家庭で必要なものを把握しお届けしながら回っておりました。私自身も母について『御用聞き』に行ったのを覚えております。

母はおお客様の家の呼び鈴を鳴らすことなく、勝手口から入り、注文を頂いておりました。私はお菓子等を頂き、子供ながら『御用聞き』は楽しいなあと思うくらい、今から思うと、コミュニケーションが取れていたと思います。もちろん今の時代では、家の造りも違えば防犯の意識も高いので、昔ながらのやり方は難しいと思いますが、今の時代だからこそ、昔のような町全体でのコミュニケーションが必要だと感じております。

防犯にしても、災害にしても、一人で立ち向かうには難しくても町全体で立ち向かえば、住みやすい町、奥沢になるのではないのでしょうか？

少しずつでいいので、昔の『いいところ』、今の『いいところ』をミックスして、今一番住みたい町 No.1ではなく『住んで一番良かった町』奥沢と言われる町にしたいと思います。

奥沢の歴史を訪ねて XⅢ

奥沢近辺の城址と地名⑦その他の城址 (vi)

今回は多摩川を少し遡った世田谷の南西部北見にあった喜多見氏陣屋跡・喜多見城の紹介をする。

喜多見城主江戸氏の祖先は古く桓武平氏出身で秩父に住み着いた秩父太郎大夫重弘の五男江戸太郎重継である(12世紀)。その子重長のとき今の東御苑付近に館を構え、一族が関東南部に広く住み着いた。

しかし、14世紀には次第に衰え、15世紀重廉のときに江戸の城館を太田資長(道灌)に譲り、世田谷の喜多見に移り、吉良氏に従った。

北条氏が武蔵野国に進出すると、吉良氏了解の下に北条氏の直接指揮を受けるようになった。天正8年(1590)北条氏滅亡後、江戸氏は姓を喜多見と改め、喜多見五郎左衛門勝重が徳川家康より旧領喜多見村に500石を安堵され旗本になった。関が原戦に参加、2000石に、更に綱吉の頃2万石に加増されたが、分家が争いを起こし、お家断絶となった。

江戸重廉が喜多見に移る以前からここには北見(木田見)氏および熊谷氏がいて所領争いの記録も残っているが、1221年の承久の乱の勲功により安芸国三入(ミリ)庄の地頭職に任ぜられていて、世田谷にはいなかったのではないかと考えられている。

この辺りは多摩川の氾濫原の立川面であり、川筋が絶えず変化している為、地形も変わり、殆ど流されているので、遺跡はあまり残されていない。

喜多見氏の館にしても一度流され、「世田谷の中世城塞」の著者元郷土資料館編集委員三田義春氏の

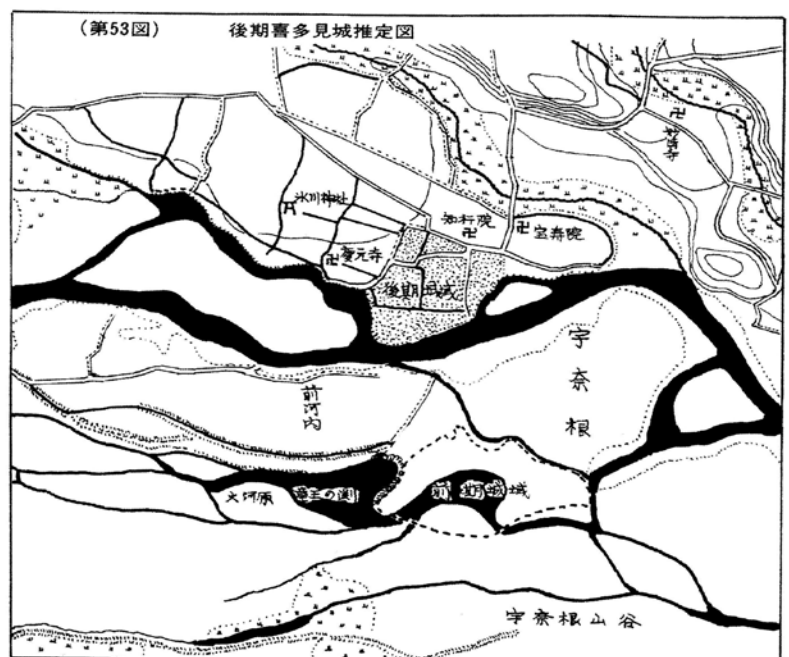
(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。)

推測によれば、地図に示された竜王の淵(字(アザ)竜王)が前期の城域ではないかという。

慶元寺はもと河川内に、氷川神社は竜ヶ淵にあったのが、洪水で流されて現在地に移されたといわれている。氷川神社があった龍ヶ淵の名は現在残っていないが、近くにある多摩川と野川の合流点には旧宇奈根村字竜王があり、形も奇妙だが半分は河原となっている。ここが前期の陣屋跡と考えたわけである。考古学的証拠はないが、字(アザ)等の古地名があり、流される前は竜王の淵が多摩川によって削られた崖になっていたと考えるとかなり確度が高い説と思われる。

また、後期陣屋はよく氷川神社から慶元寺辺りと考えられているようだが、直接的な証拠はない。三田義春氏は空堀跡といわれるものは、町田・宇奈根両川の付替水路や釣堀跡を誤認したもので、むしろその東側に続く旧宇奈根の辺りが新しく変わった多摩川の流れに接し、守り易いと考えている。この辺りには喜多見古墳群があるが、直接的証拠は少なく確かなことはわからない。

尚、少し離れるが、砧中学校付近には砧中学校古墳群(4基)があったが、現在は4号墳のみが校庭の一部に保存されている。ここは野川と仙川に挟まれた舌状台地で、古墳群のほか先土器時代の遺跡群が並び、特に嘉留多遺跡からは世田谷区最古(役3万年前)の石器が発掘されている。(赤松)



(いずれも「世田谷の中世要塞」より)

「ボタニカルアート（入門編）講習会」報告

（7月4日・シェア奥沢 テーマ「バラに始まりバラに終る」）

『体験感想文』 中川 英美さん

ボタニカルアートは初めての体験でした。描き始めはどこから描くのか戸惑いました。なんとなく描いていると目の前のバラと似た感じにどんどん描かれていき、描く楽しみが出てきました。色付けの時には立体的にならず、疲れてきました。庭の方に目をやると、せっかくの中庭が雑草だらけだったので、綺麗に手入れされていれば癒されるのに・・・など勝手な思いを巡らせていました（笑）。先生のご指導もあり、なんとか描き終える事ができました。最後に先生に少し手直しして欲しかったな・・・と思いました。今度は好きな果物を描いてみようと思います。

自分が描いていたバラに愛着が湧いたので、持ち帰れたのは嬉しかったです。新鮮なまま持ち帰れるように用意された袋もスタッフのお心遣いが伝わりました。おかげさまで一週間綺麗に咲いていました。ありがとうございました。

終わった後のお茶とお菓子のおもてなしはホッと出来ました。

PCを使っての一人ずつの先生のコメントも、他の参加者の作品も拝見できて良かったです。

（講習風景）



（作品）



活動報告

- 今回のまちめぐりは、土とみどりの表現の一つとしての庭作りの勉強の一環として、江戸、明治の名園、六義園と旧古河庭園を6月4日に下見しました。少し忙しいまちめぐりになるかもしれませんが、両方見ると時代の持つ雰囲気は良く分るので、2つを巡ることにしました。
- ニューズレターチラシの配布、掲示板設置協力は、本会の広報活動の中で重要な役割であり、日頃より有志の協力会員の方々には大変お世話になっています。この度初めてのお礼と懇談の会を開きました。懇談の中では、定例会とは一寸違うご意見が多く出て大変参考になりました。
- 会活動本来の目的である、奥沢で土とみどりを守る方策を検討して、冊子にまとめ、開発業者、奥沢居住に関心の方、地域住民の方々に伝えようとする検討会を8月から開始することにしました。

会からのお知らせ

- 今年のまちめぐりは、9月26日（土）（雨天の時27日（日））に行います。今回は、日本の家の庭がモデルとしてきた名園、六義園と旧古河庭園を訪ねます。江戸時代と明治時代の庭の特徴を比較できます。集合は9時、奥沢駅北口です（同封のチラシご参照）。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞご協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

編集後記

今回の、フラワーアレンジメントとボタニカルアート（入門編二つの講習会には、小学生が4名、3名が出席し、お母さんもお出でになり、また最高齢は89才の方も含めると、三代の方々が会の行事に参加されました。若い世代の会活動参加を期待して始めた講習会は、成果が出始めた感じであれしく思います（鈴木）

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901
世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659
世田谷区奥沢 2-41-2 玉置敬子 3724-1077
ホームページ ; <http://tsuchimidori.net>
e-mail ; info@tsuchimidori.net